



八月(大) 葉月 翼宿

八月八日立秋の節より
月命庚申二黒土星の月
暗剣殺西南方

旧 六月小
七月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	満潮	干潮
1日	火	かのと	九紫	八朔 水の日、大宮永川神社例祭、諏訪お舟祭、身代り不動尊火難除・病難除・がん封 旧六月小	十五	友引	なる	尾	神よし	4.48 18.46	18.49 3.27	10.42 23.12
2日	水	みづのえ	八白	○望三時三十分、八戸三社祭、鬼貫忌、青森ねぶた祭(7日迄)	十六	先負	おさん	箕	大みぎう	4.49 18.45	19.33 4.45	11.31 23.54
3日	木	みづのと	七赤	広島厳島神社管絃祭、秋田竿燈(6日迄)、多賀大社萬燈祭、天一天上	十七	佛滅	ひらく	斗	母倉	4.50 18.44	20.09 6.03	12.15
4日	金	きのえ	六白	久留米祭、新潟祭(6日迄)、天しや、三隣亡、一粒万倍日	十八	大安	とづ	牛	百事妨なし	4.51 18.43	20.41 7.19	12.55
5日	土	きのとひ	五黄	山形花笠祭(7日迄)、桑名石取祭	十九	赤口	たつ	女	大みぎう	4.52 18.42	21.10 8.32	13.31
6日	日	ひのえ	四緑	広島平和記念日、仙台七夕(8日迄)、東京佃祭	廿	先勝	のぞく	虚	神よし	4.52 18.41	21.38 9.42	14.04
7日	月	ひのと	三碧	鼻の日、下関忌宮数方庭祭(13日迄)、一粒万倍日	廿一	友引	みつ	危	神よし	4.53 18.40	22.06 10.50	14.33
8日	火	つちのえ	二黒	立秋三時三十分、○下弦一九時二十八分、御嶽山雲上大御神火祭、不成就日	廿二	先負	みつ	室	母倉	4.54 18.39	22.37 11.57	15.00
9日	水	つちのと	一白	長崎原爆の日、宝塚中山寺夏会式、京都清水寺千日詣り(16日迄)、三隣亡	廿三	佛滅	たいら	壁	ちう日	4.55 18.38	23.12 13.03	15.27
10日	木	かのえ	九紫	末伏、館山安房神社祭、西鶴忌、一粒万倍日	廿四	大安	さだん	奎	ぶく日	4.55 18.37	23.52 14.08	15.27
11日	金	かのとし	八白	山の日、高知よさこい祭(9日・12日)	廿五	赤口	とる	婁	●	4.56 18.36	15.09	15.27
12日	土	みづのえ	七赤	徳島阿波踊り(15日迄)	廿六	先勝	やぶる	胃	大みぎう	4.57 18.35	15.55	15.27
13日	日	みづのと	六白	月遅れ盆迎え火	廿七	友引	あやぶ	昂	大みぎう	4.58 18.34	16.06	15.27
14日	月	きのえ	五黄	奈良春日大社万灯籠	廿八	先負	なる	畢	大みぎう	4.59 18.33	16.55	15.27

一年を通じて、一番暑さを感じるのはこの月である。寝苦しい夜が続く、寝不足になりがちで涼をとるため窓を開けて寝るをしたり、暑さのために疲労が蓄積したりし、とくに健康を損ないがちな月である。幼児、小児、高齢者の日射病、熱中症には注意が必要。
【婚】この月に挙式をする人は少ない。それはさておき、わが国の結婚は普通仲人の由来と役割を簡単に説明しておこう。仲人とは結婚の媒酌人のことで、古くは、結婚の意向を伝える使者として「古事記」「日本書紀」の中にも出てくる。単なる使者から次第に重大な任務を帯びてくるのは、配偶者を求める地域がだんだん広範囲に及んで、仲介者の必要度がたかまった結果であろう。仲人親といった夫婦の仮り親視する言葉もあるくらいである。仲人役を引き受けたら、

15日	火	きのと	四緑	月遅れ盆、終戦記念日、 全国戦没者追悼式	廿九	佛滅	おさん	背	神よし	4.59 18.11	18.31	23.05	婚前後を通じて、若い二人の介添人としての自覚と責任を持つべきである。
16日	水	ひのえ うま	三碧	●朔一八時三十分、月遅れ盆送り火、三嶋大社祭、 京都・箱根大文字、松島灯籠流し 旧七月大	朔	先勝	ひらく	参	神よし	5.00 18.30	4.26 18.44	23.33	【葬】七月に述べた「お盆」の行事は、月遅れの八月十五日に行うところや、旧暦七月十五日に行うところが意外と多い。
17日	木	ひのとひつじ	二黒	滋賀建部夏祭	二	友引	とづ	井	神よし	5.01 18.29	5.25 19.11	23.33	【祭】七月に続いて各地で夏祭りが繰り広げられる。青森ねぶた祭り、東京富岡八幡宮の祭り、京都東山の大火文字、徳島の阿波踊りなどが有名である。
18日	金	つちのえさる	一白	千葉だらだら祭(16日・22日)、 伝教大師誕生会、天しや、不成就日	三	先負	たつ	鬼	よろづよし	5.02 18.28	6.22 19.35	23.33	この月の六日と九日は、広島・長崎の原爆記念の日である。灼熱の閃光が走ったと同時に市街地は焼け野原になり、数十万の人が命を落とし負傷した。人類として忘れられない日である。
19日	土	つちのととり	九紫	秋田花輪ばやし	四	佛滅	のぞく	柳	十し	5.02 18.27	7.19 19.58	23.33	広島・長崎の原爆禁止運動は、現在では核廃絶運動として世界各国にまで浸透した。
20日	日	かのえいぬ	八白	鎌倉市鎌倉宮祭	五	大安	みつ	星	百事吉	5.03 18.25	8.16 20.21	23.33	「山の日」は山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日である。(平成二十八年施行)
21日	月	かのとゐ	七赤	三隣亡	六	赤口	たいら	張	大みぎう	5.04 18.24	9.13 19.35	23.33	十五日は「終戦記念日」。二度と戦争の悲惨を繰り返さないよう、各自の胸に銘記しよう。
22日	火	みづのえね	六白	旧七夕、八せん始め、一粒万倍日	七	先勝	さだん	翼	天おん	5.05 18.23	7.59 19.59	23.33	
23日	水	みづのとし	五黄	処暑一八時一分、一遍上人忌	八	友引	とる	軫	●	5.06 18.22	8.50 20.26	23.33	
24日	木	きのえとら	四緑	●上弦一八時五七分、京都地蔵ぼん、 秩父四萬部寺大施食会	九	先負	やぶる	角	ぶく日	5.06 18.20	11.15 21.40	23.33	
25日	金	きのと	三碧	東京亀戸天神祭	十	佛滅	あやぶ	亢	神よし	5.07 18.19	11.54 21.36	23.33	
26日	土	ひのえたつ	二黒	富士吉田火祭、不成就日	十一	大安	なる	氏	大みぎう	5.08 18.18	15.08 22.45	23.33	
27日	日	ひのとみ	一白	愛知一色大提灯、 神奈川大山阿夫利神社秋季大祭	十二	赤口	おさん	房	月とく	5.09 18.16	15.51 22.45	23.33	
28日	月	つちのえうま	九紫		十三	先勝	ひらく	心	神よし	5.09 18.15	16.35 23.00	23.33	
29日	火	つちのとひじ	八白		十四	友引	とづ	尾	神よし	5.10 18.14	2.15 16.23	23.33	
30日	水	かのえさる	七赤	旧ぼん、庚申	十五	先負	たつ	箕	大みぎう	5.11 18.12	3.35 16.53	23.33	
31日	木	かのとり	六白	○望一〇時三六分	十六	佛滅	のぞく	斗	十し	5.12 18.11	4.25 17.38	23.36	

婚前婚後を通じて、若い二人の介添人としての自覚と責任を持つべきである。
【葬】七月に述べた「お盆」の行事は、月遅れの八月十五日に行うところや、旧暦七月十五日に行うところが意外と多い。
【祭】七月に続いて各地で夏祭りが繰り広げられる。青森ねぶた祭り、東京富岡八幡宮の祭り、京都東山の大火文字、徳島の阿波踊りなどが有名である。
この月の六日と九日は、広島、長崎の原爆記念の日である。灼熱の閃光が走ったと同時に市街地は焼け野原になり、数十万の人が命を落とし負傷した。人類として忘れられない日である。広島・長崎を原点として推進されてきた原水爆禁止運動は、現在では核廃絶運動として世界各国にまで浸透した。
「山の日」は山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日である。(平成二十八年施行)
十五日は「終戦記念日」。二度と戦争の悲惨を繰り返さないよう、各自の胸に銘記しよう。